

卒業後あれこれ思い出

2017年2月5日

23期卒業生 畑地 豊

23期「ポンコツ会」の山本悦郎君と西坂一裕君

私は23期の卒業です。卒業後は出不精であることもあつてか同窓会などには稀にしか参加したこと無く、あまり良い卒業生とは言えないかも知れません。

定時制課程が「閉課程」になるということを新聞紙上で目にした時も「時代の変遷による自然な成り行きのひとつなのであるから仕方の無いこと」と自分流に冷静に捉えていて、あえて「反対」という感慨をすることは有りませんでした。

ただ私たちのクラスだけはとても団結の意志が強く、在学中であつたと記憶していますが、会の名前をクラス会で決めたことを覚えています。「ポンコツ会」という名称のもと今日も活発な活動が続いています。

全員の仲間意識の強さの象徴かと理解していますが、もうひとつ「山本悦郎」君の強烈なリーダーシップのお蔭であろうと常々思っていてとても感謝しています。通信費一つを取ってみても会費など支払った覚えは無く感謝の念でいっぱいです。

それでもこの会には、可能な限り出席するように努力してきました。そうは申しても私の出席率は極め低いので偉そうなことを言えたことでは有りません。

去る2015年の夏、その山本君から予期せぬ電話が有り「近いうちに梅田で集まる。

西坂一裕君が畑地にも声を掛けてくれ」と言っているとのことでした。出席無精の私でしたが西坂君がしてくれたとあつては“ほっとけない”と思い、出席することに即決しました。

西坂君とは浅からぬ縁があつたのです。彼とは新聞部で出会い、新聞作りを一から教わりました。卒業後はお互い西宮に住んでいました。彼の実家の三田市やら新婚の住まいの逆瀬川やら、数回引っ越しをお手伝いしたことが有ります。(こまめに良く移動のあつた人でした) 私が転勤先の金沢で生活していたころ、彼は勤務先の慰安会で金沢に来る機会が有り、示し合わせて会うこととなり兼六園近くの料亭で「豪華加賀料理」をご馳走になりました。その後神戸市内でお会いしたきりで、かれこれ40年ぶりでしょうか！

梅田の集いには「堂本、中正谷、倉田、金城、西坂、中家、山本、綿谷/(順不同、敬称略)の紳士淑女」が参集されていきました。参集のきっかけは？と聞きましたら2014年北辰会総会の時に「近いうちまた会いたいね！」と誰からともなく提案があつたのがきっかけであつたと聞きました。予期せぬ突然のお誘いに出席をさせて頂き、楽しいひと時を持たせていただきました。感謝の念で一杯です。

恩師「中野良弘先生」

恩師であり担任であり卒業後もクラス同窓会にはいつも出席をして頂き、時にはお住まいであり尚且つ勤務先の山口大学の近郊にて同窓会を持ち、ご出席を仰いでいた中野良弘先生から、16年1月早々に年賀状というか「年賀状脱退宣言」なる御挨拶をいただいた。

このことは、私自身も近年、常々時折頭の中を過ぎっていたことである。いつかは止める、卒業する、適当な言葉が見つからないが、いわゆる「年賀状からの離脱、脱退、逃避宣言」なる大きな

山場をいつか実行することになるのであろうか！今の私にはまだ予測はつかないが、先生からのご挨拶の言葉が単刀直入で、数学の先生から文学的名言の宣言文を受け取った暁には入たく感激して、しばらくはうなってしまったことであった。自分もいつかこの日が訪れたらこの名言を使わせてもらおうと思って記録をした。余りにも素晴らしいと感じ入っているので先生には断りなくここで披露させて頂こうと思う。

「近年小生には年賀状発信意欲の衰えひどく年賀慣例の維持が苦痛にすらなってきたのでこれを止めることにしました。まことに手前勝手かつ非礼なことで恐縮ですが当方の高令に免じてご容赦下さい」これでご縁が切れるわけでないので、同窓会にはお顔を出して頂くなど、これまでと何ら変わらないご厚誼をお願いしたいと思っています。

同級生「寺田博君」(元北辰会会計)2014年12月永眠

4年間の学校生活を親しく送った。彼は水泳部に所属していて、対抗試合の前日「部員が足りないので助っ人に来てくれへんか！」と頼まれた。自分は熊野川で幼ない頃から「鮎」を追っかけて育ったといっても過言ではないので泳ぎには少々自信がある。

急流を泳ぎ切ることや、何時間でも泳ぐことには、そこそこ自信がある。しかし彼は「競泳」、私の場合は「遊泳」である。360度泳法が違うのである。しかし彼は頭数を揃えなければ競技に参加できなくなるので切羽詰まっている感じであった。そのことも判っていたので友人から依頼された手前断り切れず承諾した。翌日は茨木市の春日丘高校で競技会に臨んだ。全選手が黒パンツの中で唯一私はと言えば派手な“ガラパン”であった。当然ながら当時の競泳選手のパンツは殆どが黒色と相場が決まっていたのである。そのお方たちはその黒色だけで強そうに見えるのです。

結果は推して知るべし報告するに及ばずであるが、遊泳中に、元え競泳中にカルキ臭い水が好むと好まざるに関わらず我が咽喉を通過したのでありました。参加することに意義有り。水泳部の競技会参加は成立したのであるから彼に対する義理は果たせたと思っている。

競泳はともかく、遊泳は今でも夏になると熊野川だけではもの足らず、長良川水系吉田川(郡上八幡)、ある年には熊本の球磨川まで遠征して遊泳漁法で「鮎」を追っかけているのであります。

生徒会選挙では応援演説をしてもらいました。

修学旅行では天保山栈橋から関西汽船の夜行船旅で九州に出発、熊本城では北野から熊本大学に転勤されていた間場先生が慰問に来て下さいました。

帰途は蒸気機関車の鈍行夜行列車でした。列車は朝方彼の故郷である広島を通過します。駅には彼の親類の方が見えていました。あとで聞いたら今は再婚で他家に嫁がれた実のお母さんであったとのこと。人それぞれ色んな事情がおありなのだなど、何にも知らずの田舎者の私は頑張っている彼に感銘を受けました。

そういえば大阪で彼の家に泊めてもらったことが有りましたが、彼は彼の祖母と生活されていたのでした。私はといえば父は早くから無くなっていた境遇でしたが、母は健在でした。

彼は早くから司法書士受験を目出していましたね。立命館に進学してからも勉強に明け暮れていました。休みがあると中之島図書館に入り浸り(表現が不適切か！)、夏休みが来ると暑い夏を離れ長野県で避暑勉強留学(優雅ではないか！)

卒業後は大阪府の職員として母校北野で事務。その後茨木市/福井高校などに勤務、私はその頃は既に高槻に住んでいたこともあり訪ねたことも有ります。

その当時彼も高槻に住んでおりました。阪急高槻駅でばったり出会ったこともあります。

十三に「串カツの店/富かつ店」が有り、彼と良く暖簾をくぐりました。楠田訓子さんのお兄さんが経営されていて、その楠田さんが時々手伝っていたので、お会いすることもちよくちよくありました。メニューに陸のコース、海のコースとかが有り、それを注文してビールを飲みました。(おいしかったです) 山根康久君が関西方面に来られた時は顔を出されることがあるそうです。

私の結婚式では山根康久君と二人で司会をして頂きました。お陰様で今も当時の嫁とは別れることも籍も変化すること無く一つ屋根の下です。(幸せなのでしょうねえ?)

その後相当の間、私は転勤で金沢で生活することになり、昔の様にお会いする機会も減少してしまいましたが、その間結婚されて2人のお子さんにも恵まれています。

山、自然を愛する人でした。ヨーロッパの山々もこよなく愛し良く遠征されていたそうです。寂しくなっていました。冥福をお祈りします。 おわり